

令和4年は、有峰における堅果類ミズナラ及びブナの結実はともに並作もしくは豊作であった。(2022 堅果類の豊凶調査結果 2022.8.30 富山県森林研究所) 一方今年の有峰において例年確認することができるクマ棚は、昨年に比べ明らかに少なかったことから今年の状況について報告する。

有峰森林文化村では、例年「ありみね高校生学びの森」として富山県内の高校生を対象に年3回有峰で研修を行っているが、10月2日の秋季研修に先立ち9月下旬に有峰各地で現地調査をおこなったところ、昨年複数個所で確認できたクマ棚が1箇所も見ることができなかった。

また11月3日「山じまい感謝の集い」での講演を白石俊明氏（立山カルデラ砂防博物館：哺乳類担当）に依頼していたため、この開催前にツキノワグマのフィールドサイン、特に、クマ棚について有峰6カ所の遊歩道（猪根山遊歩道、折立遊歩道、東西半島遊歩道、砥谷半島遊歩道、冷夕谷遊歩道及び桐山管理歩道）に加え、東岸線沿線を除く有峰林道各線（小見線、東谷線、西岸線、南岸線、小口川線及び折立線沿線）で調査をおこなった。過去頻繁にクマ棚が観察できた6箇所の遊歩道と折立線沿線を除く有峰林道沿線ではクマ棚を発見することができなかった。一方、折立線沿線の道路沿いで、ブナやミズナラに作られたクマ棚が確認できた。これらの結果を表1に示し、昨年（2021）と比較した。白石氏によると豊作年にクマ棚を見るのが少ないのは、人目に付く木にあえて登る必要がないことも一因であるとのことであった。

長谷川幹夫氏（TOGA 森の大学校長）より今年（2022）は有峰ではブナが並作から豊作、ミズナラが並作（落下したミズナラのドングリを有峰県立自然公園内の各地で発見・観察）であったため、木に登らなくてもドングリを確保できたことが推測との見解をいただいた。

また、上毛新聞掲載記事（(株) 群馬野生動物事務所代表 春山明子氏）には、「近年の研究では、堅果類が多い年はクマが枝を折って食べた痕跡、通称（クマ棚）が少ないこと。わざわざ木に登らなくても、地面に落ちた堅果類を食べるだけで必要なカロリーを摂取できる」と同様な見解が記載されている。

有峰における堅果類ミズナラ及びブナの結実は明らかに昨年より良好であったことから、今年の有峰の調査要所でのクマ棚の発見が昨年に比べ明らかに少なかった理由ではないかと考えられる。今年、折立線沿線でクマ棚が作られていた場所は、東岸線との分岐点から新折立トンネルの間に集中し、沿線沿いたけでも23カ所発見した。このクマ棚は、ミズナラ及びブナとも大木でない木にも作られており、比較的登りやすかった、とも推測されるが、集中してクマ棚が作れていた理由を推測するうえで今後も有峰全域での調査が必要と考える。

有峰の堅果類は、ツキノワグマ以外にもニホンザル、イノシシ、アナグマ、アカネズミやヒメネズミなどのげっ歯類のほかカケスなどの鳥類においても貴重な栄養源となっており今後もこれらの個体数の変化にも注視していきたい。

#### 参考文献

2022年 堅果類の豊凶調査結果（富山県森林研究所 2022.8.30）

春山 明子 視点オピニオン 謎解明へ多様な研究を 秋の実りとクマの行動（上毛新聞 2022/8/25）

小池 伸介著 森と生きる。ツキノワグマのすべて（文一総合出版）

表1 2022年有峰におけるツキノワグマのクマ棚の調査結果

調査場所	調査期間	発見したクマ棚の数	発見したクマ棚の樹種		2021年クマ棚
			ブナ	ミズナラ	
猪根山遊歩道	9月24日～11月2日	0	0	0	○(ブナ)
折立遊歩道	9月24日～11月2日	0	0	0	×
冷々谷遊歩道	9月24日～11月2日	0	0	0	○(ミズナラ)
東西半島遊歩道	9月24日～11月2日	0	0	0	○(ミズナラ)
砥谷半島遊歩道	9月24日～11月2日	0	0	0	○(ミズナラ)
桐山管理歩道	9月24日～11月2日	0	0	0	○(ミズナラ)
折立線沿線	10月15日～11月2日	23	17	6	×
小見線沿線	9月24日～11月2日	0	0	0	○(ミズナラ)
西岸線沿線	9月24日～11月2日	0	0	0	×
大多和線沿線	10月15日～11月2日	0	0	0	○(ミズナラ)
東谷線沿線(道源谷～東谷線北車止)	10月15日～11月2日	0	0	0	×
小口川線沿線(不動谷～祐延ダム)	10月15日～10月31日	0	0	0	×



ミズナラに作られたクマ棚 (折立線 2022.11.9)



ブナに作られたクマ棚  
(折立線より 2022.11.9)



ブナに作られたクマ棚  
(折立線より 2022.11.9)



ブナに作られたクマ棚  
(折立線より 2022.11.9)